

宮崎県教員育成協議会 議事録概要

1 日時

令和6年1月30日（火） 午後2時30分から午後4時30分まで

2 会場

県庁防災庁舎76号館

3 出席者

宮崎県教員育成協議会委員14名

4 内容

(1) あいさつ（副教育長）

(2) 説明

- 研修受講履歴記録システムの導入、運用について（教職員課）
- 次年度の教員研修について（研修センター）
- 教員養成に係る大学生の調査(アンケート)報告（教職員課）
- 令和7年度教員採用選考試験の実施について（教職員課）
- 「教職員の資質能力向上プラン」について（教職員課）

(3) 協議（分科会）

協議題「宮崎県教員育成指標を踏まえた養成・採用・研修における大学と教育委員会との連携について」

- ・大学との連携推進
- ・採用選考等の工夫・改善

（分科会A）

<大学との連携推進>

委員： 新規採用の先生方に求められる資質能力として、現場で求められるのは、コミュニケーション能力や教職への情熱だと思う。大学からストレートで採用された教員が、保護者や地域の方々との関わりが分からないという場合が増えているように感じる。

大学の中でも講座等が設けられているとは思いますが、さらに強化していく必要がある。若手教員の育成については教育委員会と大学で連携できるとよい。

委員： 初期研修者を見ていて、やはりコミュニケーション能力がついてくるとよい。保護者対応や特別な支援が必要な子どもへの対応が難しいと思っている初期研修者も多い。学校でももちろんやっていくが、特別支援に関わる学習を積んできてほしい。保護者対応についても同様である。

委員： 教員研修は時代のニーズに応えることが課題であるため、そこに応えていけるようにしたい。

大学との連携というと、プレステージ向けのひなた教師塾を年間8回実施している。具体的で役立つものを提供したいため、スーパーティーチャーや指導

主事を講師にしている。単位になる大学もある。採用試験が前倒しになると、大学のカリキュラムも変更になるのではないかと。それに合わせて学生につなげたい。

委員： コミュニケーション能力は大切だと思う。本学では、適応指導教室をキャンパス内に設置している。学生としては経験になるし、子どもの居場所づくりとして、まずは、場があるとよいと考える。アンケートの中に、(教職を目指す)学生の理由として、憧れの先生がいたという内容が多かったので、現職の教員へのあこがれをもつような支援をしたい。

委員： 本学の3、4年生が教員になるのに不安だと感じている理由は、授業が上手くできるのかということもあるが、それ以上に保護者対応や生徒とのコミュニケーション、生徒指導ができるのかということが多い。スクールトライアルを受け、勉強になったと帰ってくる学生が多い。これまでの話にもあったが、大人と関わる機会は少ないので、大学としても考えていく必要がある。

委員： コミュニケーション能力に関しては、本学としても取組はしているところで、昔ながらの講義形式の授業からディスカッションなど取り入れた授業は試みている。しかし、地域の大人、保護者と触れ合う機会は少ないので、考えていきたい。

委員： 教科指導について、若いうちからセンスを磨くことが大切である。そのためは、いい授業を見ること、徹底的に真似することである。いい先生の授業をみたいと言っていたら、地域にはたくさんいるので、依頼があれば対応していきたい。

〈採用選考等の工夫・改善〉

委員： 大学推薦枠を設けていただいているので、大学としてもいい人材を推薦したい。中高生を対象にした、ひなたドリームカフェは、非常によい取組だと思う。本学でも高校生向けに平成28年から「教師みらいセミナー」を実施してきたが、参加数が減りつつあるので、刷新する必要があると考えている。

委員： 採用倍率をどう高めるのか、教育系に進む学生をいかに増やすかが、大切になる。中高生を対象としたイベントでは大学生を使った企画などがあると、よいきっかけになるのではないだろうか。

委員： ペーパーティチャー説明会はありがたい。掘り起こしが必要だと思うが、研修を学校現場で行うなどの工夫をしてもよいのではないかと。

また、他県では免許を持ってない方でも臨時免許で採用しているというような話を聞くので、検討をしてもよいのではないだろうか。

委員： 教員の負のイメージを払拭していくことも大事だが、児童生徒を介して保護者に伝えることはできる。また、PTAの研究大会で、イメージ番組を作って、一コマ分をその会で流すなど、直接訴えていくこともできるのではないかと。

(分科会B)

〈大学との連携推進について〉

- 委員： スクールトライアルについて、教職課程を取っている学生2年生全員に受講させている。
- 委員： 学校の配置はどのようにしているのか。
- 事務局： 基本的には出身校であるが、県外の学生もいるので例外もある。
- 委員： 学校にスクールトライアルの依頼をするときに、教職の良さなどを伝えるという主旨を学校側にしっかり伝える必要があるのではないか。
- 委員： 本学では、スクールトライアルに参加する学生に、仕事の大変さもあるが、喜び、達成感もあるということを事前に指導している。
- 委員： 学校側にこの事業の重要性をしっかりと伝えることが大切。教育長として教員を育てないといけない、子どもたちを育てるのにつながるということをしつかり伝えたい。夢や希望を持って教員になりたいという学生を増やすためにもこの事業の重要さについて市町村教育委員会を通じて学校にも理解をしてもらいたい。
- 委員： 配付資料の学生のアンケートを見たとき、県外に進学した学生も宮崎に戻りたいと思っているのではないかと思うが、県外の大学に行っている学生についての呼びかけ等はしているか。
- 事務局： 県外での説明会や研修会（オンライン）の案内をしている。

〈採用選考等の工夫・改善〉

- 委員： 宮崎から他県に進学している学生に帰ってきてもらいたい。他県で勤務先に配慮している自治体もある。そういう自治体と宮崎県を併願しているのではないか。
- 委員： 県外出身の学生に宮崎県で勤務をすすめたりして数人宮崎を受けてくれた。他県では来年3年生受験を実施するところもあり、その部分で心配はある。
- 委員： 特別選考について、大学推薦の枠をもらっているが、本学は小学校の免許をとる学生が少ない。年によってバラツキがあり、枠が毎年同じ数だと無駄になることがありもったいない。逆に免許取得する学生が複数いるのに、枠が足りないという場合もある。
- 委員： 専門性は採用後に向上させることができる。そのため、人間性などを重視した試験の方が良いと考える。
- 委員： 採用後に専門性を伸ばすための取組として、大学の講義を現役の先生が受講・活用することもできるのではないか。
- 事務局： 直接学生に対して、宮崎で働く魅力を伝えることができる場を増やしていきたいと考えている。
- 事務局： 本日いただいた意見は今後の本課の取組に生かしていきたい。